

# ひがしの子

令和5年12月1日  
岐阜市立岐阜東幼稚園  
園長 藤井 佐由美

## カマツカの死にふれて、なつめ組の子どもたちが、おじさんに聞きました！！



なつめ組の子どもたちは、10月の遠足で達目洞に行った際、岐阜市役所環境保全課の方々に逆川に生息する生き物をいただいてきました。すると、翌日、一匹の魚が尾びれをかじられてしまったため水槽を分けることにしました。それから、餌を多く食べてしまう魚がいると、「この子が餌を食べられないから、(水槽を)分けた方がいい。」と言っては、別の水槽に分けたりしていました。そうやって毎日餌をやり続けて大切に飼

っていたのに、カマツカが死んでしまい、子どもたちは「どうして死んでしまったんだろう…」と相談した結果、『あのおじさん』を呼ぶことにしました。その様子が、先日、朝日新聞に掲載されました。

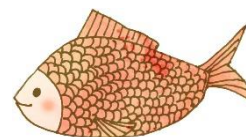
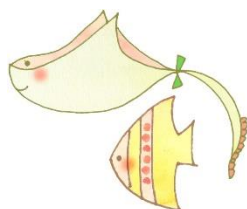
岐阜市役所環境保全課自然係の福永さんは、ゆっくり穏やかに分かりやすく絵に描いて説明してくださいました。水の上の方にいるメダカなど、真ん中にあるヌマムツやアブラハヤなど、そして、水の底(時々砂の中)にいるカマツカなど、それぞれの特性により、与える餌が違います。餌には浮く餌と沈む餌があるんですって。そして、カマツカはたくさんの酸素を必要とする魚で、自宅用のポン



プや水の量では全然足りないそうです。カマツカが白くなってしまった原因も教えてもらいました。事前に子どもたちの素朴な疑問を出し合い、それを、担任がカードにしておいたことで、翌日でも忘れずに『おじさん』に聞いたようです。インタビューを受けたA君は、「酸素が足りないことがわかった。」「Bちゃんが、おじさんに聞いてみたらいいって言ったんだ。それで、ぼくは、賛成って言ったんだよ。」とっていました。そのBちゃんは、カマツカとの関わりが、生活の一部になっていたようで、死んでしまったカマツカを積極的に福永さんのところに持って行ってその経緯を伝えていました。

生き物との関わりは、子どもたちがいろいろなことを感じ、考える機会を与えてくれます。今回の事例のような

姿が育ってくるためには、生き物への興味・関心の高まり、一見残酷にも見える年少児時代の関わりが大切です。初めは興味本位に生き物と触れ合っている姿から、毎日世話をすることにより、その生き物に愛着が芽生え大切にしようとする姿が育っていきます。この命あるものを大切にしようとする姿は、その後の人生においていろいろなものを大切にしようとする姿につながります。これからもこんな姿を大切にしていきたいと思います。



## 《12月の保育について》

【3歳児】

<ねらい>

- 自分の好きな遊びを見つけて繰り返し楽しむ。
- 友達や大きい子のしていることに興味・関心をもってかかわる。

【4歳児】

<ねらい>

- 自分のしたいことで力を発揮し、友達と一緒に遊びを進める。
- 身近にあるものを遊びに取り入れて、自分なりに工夫して遊ぶ。

【5歳児】

<ねらい>

- 自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞き入れたりしながら遊ぶ。
- 友達と一緒にルールのある遊びを楽しんだり、遊び方を工夫したりする。



♡ 11月の保育参加へのご参加ありがとうございました。

たいよう組の「切った」や「ドッジボール」、なつめ組の「引っ越し鬼」や「転がしドッジボール」、こあら組の「動物なりきり選び」や「バルーン遊び」では、親子の仲睦まじい姿を見せていただきました。子どもたちは、普段幼稚園で自分たちがしている遊びを保護者の方に一緒にやってもらえることがとても嬉しかったようですね。招待している気持ちだったのだと思います。保護者が一緒であるが故に甘えていて普段とは異なる姿を見せる子どももいました。どっちの姿もその子どもの姿なのだと思います。仕事のご都合などつけてご参加くださりまして本当にありがとうございました。

